

語り部の経営者たち

ジャーナリスト 中川明紀

「お客さまの喜ぶを自分の喜びとして親と華仕に努める…」

ねぎしは、経営理念の唱和から始まる。これだけなら同様の企業も多々ある。しかし、ねぎしでは社員、アルバイト全員が経営理念を共有するために、もう一歩踏み込んだ取り組みを展開している。

「唱和の後に、経営理念に基づいた行動規範を一人一言ずつ話します。さらに、年に1回、社員全員、外国人も含めた一部のアルバイトが経営理念について書いた冊子を製作するんです。」

各店舗には毎日300〜400人の客が訪れる。もちろん、さまざま



色紙にしたためられた経営哲学

ねぎし 根岸榮治 社長

⑤

思い8割、スキル2割

「お客さまの喜ぶを自分の喜びとして親と華仕に努める…」

ねぎしは、経営理念の唱和から始まる。これだけなら同様の企業も多々ある。しかし、ねぎしでは社員、アルバイト全員が経営理念を共有するために、もう一歩踏み込んだ取り組みを展開している。

「唱和の後に、経営理念に基づいた行動規範を一人一言ずつ話します。さらに、年に1回、社員全員、外国人も含めた一部のアルバイトが経営理念について書いた冊子を製作するんです。」

各店舗には毎日300〜400人の客が訪れる。もちろん、さまざま

経営理念の共有

「私は親切が究極の企業 清潔感を競うクレンジング、冷めてしまったお惣菜、物を売る商売（会）など、さまざまな取組が、おかげで独自の取り組みがある。品質を高めること、お客さまの喜ぶを自分の喜びとして親と華仕に努める…」

顧客満足度を高める

「私は親切が究極の企業 清潔感を競うクレンジング、冷めてしまったお惣菜、物を売る商売（会）など、さまざまな取組が、おかげで独自の取り組みがある。品質を高めること、お客さまの喜ぶを自分の喜びとして親と華仕に努める…」

「ねぎしは接客の質を高めるために、電話がかけられる店員、スタッフが、お客さまの喜ぶを自分の喜びとして親と華仕に努める…」

語り部の経営者たち

ジャーナリスト 中川明紀

「我が社も売り上げが半減。このままでは倒産しかねないというピンチです。そこで新たに豚肉や鶏肉の定食を開発。他のメニューを加えることで徐々に売り上げが回復し、危機を乗り切ったんです。」

「メニューを増やしたことで他のメリットもあった。ねぎしの評判が高くなるにつれて同じ業態の店が増える中、差別化を図る（こと）に繋がったのである。」

「そして、ピンチを乗り越えられた

ねぎし 根岸榮治 社長

④

上から与えられた仕事は「他人事」 働き甲斐を感じるには「我が事」にするしかない

「銀行に提出していたんです。要請されたわけがありません。でも、担保がない会社（ベンチャー）だから、銀行が手を出さず、事業内容が将来性を知らず、知らず知らずのうちに、長たなが作成しているんです。」

「銀行に提出していたんです。この姿勢が評価されてBSE問題の際に、銀行が手を差し伸べた。銀行に提出していたんです。この姿勢が評価されてBSE問題の際に、銀行が手を差し伸べた。銀行に提出していたんです。この姿勢が評価されてBSE問題の際に、銀行が手を差し伸べた。」



ねぎしでは、売り上げ目標や数値設定は店長自身が決め、品質向上の具体的な取り組みも、店長たちが参画しているのだ。

「たがえは、売り上げ目標を決めるのも、上から下りてくるのではなく、店長自身が昨年や今年より来年、再来年より再来年と永遠に満足しないもの、幸せの決め手にはなりません。仕事における本の幸せは、働甲斐を感じるかどうかにあると思うんです。」

「ねぎしでは、売り上げ目標を決めるのも、上から下りてくるのではなく、店長自身が昨年や今年より来年、再来年より再来年と永遠に満足しないもの、幸せの決め手にはなりません。仕事における本の幸せは、働甲斐を感じるかどうかにあると思うんです。」

店長が売り上げ目標も数値設定も決める

「ねぎしでは、売り上げ目標を決めるのも、上から下りてくるのではなく、店長自身が昨年や今年より来年、再来年より再来年と永遠に満足しないもの、幸せの決め手にはなりません。仕事における本の幸せは、働甲斐を感じるかどうかにあると思うんです。」

「ねぎしでは、売り上げ目標を決めるのも、上から下りてくるのではなく、店長自身が昨年や今年より来年、再来年より再来年と永遠に満足しないもの、幸せの決め手にはなりません。仕事における本の幸せは、働甲斐を感じるかどうかにあると思うんです。」